

E

エルダーの旅便り

LDER

2007
冬号

11月～12月
プログラム

エルダー旅倶楽部 世界を舞台に楽しく学ぶ大人の教室

通巻191号

暖簾を新たに
変わるもの、
変わらないもの

いつの世もどこの世界でも変えなくてはならないものと変えてはいけないものがあります。NPO法人エルダー旅倶楽部は10月からグローバルキャンパスに名称が変わりました。これから変わるもの、そして変わらないものについてお伝えしたいと思います。

変わる社会と人びとの意識

米国Elderhostelをモデルに、旅先で学ぶというエルダーホステル運動が日本ではじまったのは1980年代半ばのこと。高齢社会や生涯学習といった言葉がまだ聞きなれなかったこのころ「エルダー世代の新しい生き方」というメッセージは新鮮な響きをもって受け入れられました。

それから20年近くをへて、団塊の世代が退職を迎えるいま、多くの人びとは幅広い選択肢から自らの志向に沿った自分らしいライフスタイルを楽しむようになりました。

日本のエルダーホステル運動は、米国同様、生涯学習を推進する非営利市民公益活動としてスタートしました。しかしこの「公益性」は、社会の変化によって変わるものであり、わたしたちも、その変化に的確に対応していかなくてはなりません。

さらにいま60代そして70代の方ですら、本誌「エルダーの旅便り」を手渡すと「わたしはエルダー（高齢）じゃないので必要ありません」と返されることが少なくありません。

ICT社会におけるコミュニケーション

80年代、海外と通信する際にはKDDIの窓口に向いてテレックスを打っていました。まもなくファックスが普及し、通信環境が格段によくなったと思ったら、いまではインターネットで世界中の人たちと簡単につながりました。じつに安価で簡単に情報を入手し、また情報を発信することができるようになったのです。

情報通信の発達には社会や人びとの生活を大きく変えました。事務局においても、これまで電話で受付けていた講座申込みも、いまではホームページからが半数近くを占めるようになりました。こうした背景をもとに会員のみなさんとのコミュニケーションの方法も、新たなカタチを追求していく必要が生まれてきています。

知的冒険と「思い」をつなぐ出会い

一方、学びと交流をとおして異文化理解を深めることや、旺盛な知的好奇心に応えるプログラムをつくることはこれまでと変わることはありません。また国内外を問わず、ひとつひとつのプログラムが、どれも手づくりであることも変えることができません。どのプログラムもコーディネーターの「思い」から生まれ、あたたかい血が通った、まるで生き物のようなものだからです。さらに、効率を重視して利潤を追求する大量生産・大量消費のスタイルとは一線を画し、参加者主導の参加型スタイルも変わることがありません。

人と人、人と地域、心と心をつなぎ、感動にあふれ、生きる力を生み出す場づくりが、わたしたちの使命であり、プログラムをとおしてみなさんにご体験いただきたいものなのです。

こうした基本にのっとり、暖簾新たにグローバルキャンパスを運営してまいりますので、これまでと変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

NPO法人グローバルキャンパス理事長 大社充

大社 充
Okoso Mitsuru

1961年宝塚生まれ。京都大学在学中はアメリカンフットボール部のQBとして活躍し、京大初の全国優勝に貢献。卒業後は、松下政経塾で「高齢社会と生涯学習」をテーマに研究。1987年からエルダーホステル協会の創設に参画。04年エルダー旅倶楽部を設立し、現理事長。07年10月からNPO法人グローバルキャンパスに名称変更。



2004年ニューヨーカー体験講座に同行